

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(6) 国際交流事業の推進	<p>○日本語教室開設により、多文化共生の町づくりを推進する。</p> <p>平成 30 年度 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業地域日本語教育スタートアッププログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中能登町教育委員会として受託した。</li> <li>・「生活者としての外国人」が対象。</li> <li>・平成 29 年度から 3 年間、文化庁より補助及びアドバイザーの派遣を受けて日本語教室開設に向けて取り組む。</li> <li>・日本語教室が町の多文化共生の拠点となる事を目指す。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレ教室を 6 回開催して、外国人学習者、延べ 85 名の参加があった。</li> <li>・2 月から、教室を試行的に開始できた。</li> <li>・教室名を、中能登にほんごひろば「茶の間」～しゃべらんかいね～とした。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中能登町国際交流の会 多文化共生部会としての活動を行っていく。</li> <li>・中能登町から委託費を計上し、中能登町国際交流の会が主として企画運営を行っていく。</li> <li>・日本語教室開設に向けて、さらに住民への周知を行っていく。</li> <li>・諸団体や、近隣市町との連携をしていきたい。</li> <li>・安定的な運営を目指して、町国際交流の会との連携を図っていく。</li> </ul>

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(7) 図書館の充実	<p><b>○生涯学習の拠点として、町民のニーズに配慮した必要な図書、資料を収集し、町民の読書意欲を喚起する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書購入予算内で、より多くの図書購入ができるよう3図書館で連携し、重複しないように購入している。</li> <li>・話題性の高い本は3館で購入するなど工夫している。利用者の希望の本が町内図書館で蔵書していない場合は、県内図書館や県外図書館からも借り受けることができるサービスを行っている。また、季節や旬の話題を取り入れてテーマを決め、展示コーナーを設けることにより、読書意欲を喚起している。</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の希望に応じ、リクエストがあった図書はなるべく購入し、県内外図書館から借り受けることで、利用者の貸出冊数が増加となった。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き利用者のニーズを把握し、利用しやすい図書館を目指し、町民の読書意欲の増進に努めていく。</li> <li>・図書館統合といった大きな課題もあり、より充実した図書館を目指し、方策を考えていく必要がある。</li> </ul>
	<p><b>○読書グループ、図書館ボランティアの資質向上を目指し育成支援を図る</b></p> <p>①図書館ボランティア養成講座（全4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 平成30年5月23日（水） 「読み聞かせ」 ～楽しもう学校図書館ボランティア～</li> <li>・2回目 平成30年5月29日（火） 「乳幼児向け読み聞かせ」 ～0才から絵本とふれあいを～</li> <li>・3回目 平成30年6月7日（木） 「わらべうた」 ～幼児から小学生低学年までのわらべうたと読み聞かせ～</li> <li>・4回目 平成30年6月15日（金） 「民話紙芝居」 ～手作り大型紙芝居で民話を伝えよう～</li> </ul> <p>②公開読書会（2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏 平成30年9月5日（水）「無鹿」遠藤 周作/著</li> <li>・秋 平成30年11月29日（木）「小僧の神様」志賀 直哉/著</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座を開催することで、新規ボランティアの加入につなげることができた。参加して良かったとの声もある。</li> <li>・公開読書会 参加者（夏）18名、（秋）15名 テキストのテーマに即した図書の展示を行い、本の紹介に努めた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座を生かし、図書館ボランティアの活動範囲を広めていきたい。</li> <li>・読書会会員以外の公開読書会の参加者が少ないことから、一般の利用者が参加しやすいような周知方法を考えることが必要である。</li> </ul>
	<p><b>○家族での読書の推進を目指し「うちどく（家読）」の推進を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うちどく推進賞を実施 「うちどくノート」町内小学校全児童に配布し、うちどくノート提出順に学校で表彰を実施 シルバー賞、ゴールド賞は2月に学校で表彰</li> <li>1) 「うちどく賞」（1冊目達成者） （1～4年生 15冊 5～6年生 8冊）</li> <li>2) 「シルバー賞」（2冊目達成者）</li> <li>3) 「ゴールド賞」（3冊目以上達成者）</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度受賞者数 うちどく賞 556人 シルバー賞 135人 ゴールド賞 311人 前年度に比べ、うちどく賞とゴールド賞の参加者が大幅に増加した。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と連携をとり読書の習慣化を図りたい。</li> <li>・家族でのルールを作り、家族と一緒に本についてコミュニケーションをとってもらえるよう引き続き実施していきたい。</li> </ul>

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(7) 図書館の充実	<p><b>○学校図書館司書と連携、協力し学校図書館の活性化を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館担当者との連絡打合せ会の実施</li> <li>1) 実施日 平成 30 年 4 月 24 日 (火)</li> <li>2) 参加者 学校図書担当教諭, 学校図書館司書, 町立図書館職員</li> <li>3) 内 容 町図書館の小中学生対象事業について各校の読書指導計画についてボランティアによる朝読書についてうちどくノートについて</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館にない図書, 授業で使用する図書を町立図書館や町外図書館から借りて補うことができた。</li> <li>・学期に 1 回ずつ学校司書連絡会に参加し, 町と学校それぞれの企画や現状について共有できた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館司書の充実を図り, 学校図書担当教諭との連携を強化し, 児童生徒の学校図書館, 町立図書館の利用推進を図る。</li> </ul>
	<p><b>○乳幼児から絵本に慣れ親しんでもらうため、町内に生まれたすべての赤ちゃんを対象に絵本を手渡し、ボランティアと職員が読み聞かせ等を行うブックスタート事業を実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタート事業</li> <li>1) 対象児 7ヶ月の乳児 (103 人)</li> <li>2) 実施日 保健センターでの 7ヶ月児健診時</li> <li>3) 内 容 2冊の絵本を贈呈 (20 種類の本から 2冊を選ぶ)</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタート後に図書館を訪れ, 子供の図書カードの登録と絵本を借りていく親子が見受けられた。ボランティアの参加により, 親子での絵本の読み聞かせの普及と図書館利用の推進に繋がっている。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から図書と慣れ親しむことが大切であることから今後も引き続き事業を実施し, 本の楽しさを知ってもらい, 図書館利用の推進を行う。また, ボランティアの増員を図り読み聞かせの充実を図る。</li> </ul>
	<p><b>○3館ある図書館の充実を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の関係上, 重複しないよう図書を購入しているが, どの図書館でもその図書を借りることができるよう予約を受け付けている。また, 町内の図書館で借りたものは, 借りた図書館でなくても返却できるようにしている。</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書の予約受付をすることで, 利用者が足を運びやすい図書館で貸出しをすることができ, 利用者の負担軽減となっている。</li> <li>・平日は毎日図書を運搬することで利用者に早く予約本を貸出できるよう努めている。</li> <li>・図書の貸出しだけではなく, 各図書館でのおはなし会やいろいろな行事を行うことで多くの利用者 (子どもからお年寄りまで) が利用しやすい場を提供できた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のニーズにあった運営を図書館のあり方や事業について検討していく。</li> </ul>

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(7) 図書館の充実	<p><b>○学校読み聞かせボランティアの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校からの依頼により、各小中学校での朝昼読書タイムに読み聞かせボランティア（31人）が月1回読み聞かせを行った。</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせを行うことで、児童生徒の読書への関心が高められた。</li> <li>図書館職員も読み聞かせに参加し、自ら経験を積んでいる。同時に図書館のPRも行っている。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせは、心のケアにもつながる利点があるため、新規ボランティアを募り、事業を継続する。</li> </ul>
	<p><b>○図書館講座や行事を実施</b> （一般向け）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文学散歩</li> <li>文学講座</li> <li>図書館まつり（おはなし会、映画会、古本市他）</li> <li>図書館講座</li> <li>絵本の中の料理教室</li> <li>子ども映画上映会</li> <li>クリスマスおはなし会</li> <li>ぬいぐるみおとまり会</li> <li>ミニおはなし会</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種講座や行事を行うことで、図書への関心が高められた。また、図書館利用の向上にもつながった。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書との関わりを広く持ってもらえるよう、今後もさまざまな講座や行事を推進していく。</li> <li>参加者が増加するよう広報やPRに努める。</li> </ul>
	<p><b>○おはなし会の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おはなし会ボランティアによるおはなし会を各図書館にて定期的実施</li> <li>「鳥屋図書館」ピノキオ（第1土曜日）</li> <li>「鹿島図書館」のんたん（第4土曜日）</li> <li>「鹿西図書館」ボランティアーズ（第2土曜日）</li> <li>ミニおはなし会（毎週木曜日）</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>おはなし会を行うことで児童の絵本への関心、地域の方が実施することで、地域とのふれあいの場に繋がった。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、おはなし会を継続実施し、児童に図書への関心を深めてもらいたい。</li> </ul>

## 6 生涯スポーツの振興

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(1) ジュニアスポーツクラブの充実	<p><b>○スポーツ少年団、ジュニアスポーツクラブの活動を支援し、子どもたちの心身を育てる</b></p> <p>・ジュニアスポーツ教室の開催</p> <p>20 教室を実施し、各教室年間 50 日から 300 日の活動を行った。各教室には育成費や大会派遣費を補助し、その活動を支援している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 鹿西剣道教室</li> <li>2) 鹿島少年剣道教室</li> <li>3) 中能登柔道教室</li> <li>4) 少林寺拳法</li> <li>5) とりやアスリートクラブ</li> <li>6) 中能登ジュニア体操クラブ</li> <li>7) 鹿西サッカースポーツ少年団</li> <li>8) かしま F C (サッカー)</li> <li>9) 中能登ジュニアトランポリンクラブ</li> <li>10) 中能登フェニックス (ミニバス男子)</li> <li>11) 中能登ミニバスケットボールクラブ (女子)</li> <li>12) 中能登クラブ (学童野球)</li> <li>13) 中能登卓球スポーツ少年団</li> <li>14) とりやソフトテニスクラブ</li> <li>15) バドミントクラブかしま</li> <li>16) バレーボール女子</li> <li>17) 極真 中能登カラテ</li> <li>18) なかのと織姫ソフトボールクラブ</li> <li>19) ジュニア空手道教室</li> <li>20) 武道教室 山口道場</li> </ol>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体とも引き続き熱心に活動し、活動日数を増やしたクラブもみられる。</li> <li>・熱の入った指導のもと、中には全国大会に出場している教室も多くみられる。</li> <li>・同一種目で複数クラブが統合するなどの少子化の影響も出ている。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総児童数に対する加入率は 48.5% となり、昨年度より約 1.3% 減少している。夢プロジェクトとの連携や大家族型スポーツ事業などの成果が見え始め、今後も多くの児童に加入を勧めていきたい。</li> </ul>
	<p><b>○ジュニアスポーツクラブ指導者育成派遣を行い、指導者の資質向上を図る</b></p> <p>・指導者としての資質向上のため、資格取得や各種講習会への参加について派遣補助を行う。</p> <p>・スポーツ振興フォーラム 2019</p> <p>日 時 平成 31 年 3 月 17 日 (日) 午後 2 時～</p> <p>会 場 ラピア鹿島アイリスホール</p> <p>内 容 体育功労者・優秀スポーツ選手等表彰</p> <p>講 演 演題 「いま、ジュニアスポーツ指導者に求められるもの」</p> <p>講師 桐蔭横浜大学大学院 スポーツ科学研究科 准教授 渋谷 崇行 氏</p> <p>参加者 ジュニア指導者等 約 100 名</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者が資格を取ることにより、指導力の向上及び競技会への出場が可能となった。</li> <li>・平成 30 年度は新規事業として、ジュニアスポーツ指導者や関係者を対象としたフォーラムを開催した。多くの方々が講演を聴き、指導や育成に係る事項を確かめていた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人でも多くの指導者養成のため、講習会等への受講を幅広く呼び掛けていく。</li> <li>・指導方法のあり方が騒がれている今日であるが、少しでも資質向上に繋がる事業を進めていきたい。</li> </ul>

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(2) 地域スポーツの振興	<p><b>○体育協会やスポーツ推進委員との連携を図り、地域スポーツの推進を図る</b></p> <p>①体育協会は 23 競技団体を指導及び各種の補助をし、ジュニアから一般世代までの競技力向上を目指している。特に町民大会の開催については、大会開催費を補助し、大会運営に大きく寄与している。また、県民体育大会では各競技団体及び出場種目選手に手厚い補助をし、競技力向上及び町の知名度アップに尽力している。</p> <p>②スポーツ推進委員会は 15 名で組織され、各小学校の PTCA<sup>※5</sup>活動やスポーツ活動、町スポレク祭(カローリング体験会)の企画運営、北陸地区、県、中能登地区の研修会に参加し、その技量のアップに尽力し、町及び地域のスポーツの推進に尽力している。また、町委員会での研修会も企画し、スポーツ推進委員としての資質向上に努めている。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度は各競技の指導強化により、ジュニアにおいては延べ 55 人を全国大会に選手派遣し、高校生及び一般競技においても延べ 35 人の全国大会出場選手を輩出した。</li> <li>・高校総体、国体出場選手には懸垂幕を掲揚し、選手の健闘を讃えた。</li> <li>・PTCA<sup>※5</sup>活動では、ドッジビーやキンボール等のニュースポーツの普及に尽力した。</li> <li>・町スポレク祭ではカローリングを行い、新たなニュースポーツを紹介、普及を行った。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育協会においては、一層の競技力向上を目指し、チャンピオンスポーツとして更なる好成績を目指すべく、選手育成に尽力する。</li> </ul>
	<p><b>○スポーツレクリエーション祭の充実を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員が企画運営するカローリングをメインに町民ソフトボール、町民グラウンドゴルフなどの各種大会、テニス、ソフトテニス、バウンドテニスを実施した。</li> <li>・生涯学習のつどいにおいて、ニュースポーツの普及に向けた取り組みとして、カローリングのデモ会場を設置し、多くの方々に競技の内容をPRした。</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中能登町では馴染みの少なかったカローリングを紹介することで、新たなニュースポーツを体験することができた。</li> <li>・生涯学習のつどいでは、子供から大人までがカローリング競技を楽しみ、普及促進に努めることができた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員会には、今後も多くの方にカローリングを紹介し、体験してもらいたい。</li> </ul>
	<p><b>○県民体育大会への参加競技の拡大を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーリング、セーリング、フィールド射撃、綱引きなど近年参加競技が増えたが、なぎなた等の参加したことのある競技の再出場に向け選手発掘を実施する。また、新たに銃剣道競技、山岳競技が参加となり、より一層の参加拡大を図りたい。</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの選手の参加によりスポーツ振興賞を受賞している。</li> <li>また、総合順位においても同規模の市町と比べると健闘している。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる参加競技拡大のため、かつて出場できた競技の選手発掘に努め、各競技団体に呼び掛ける。</li> </ul>

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(3) スポーツ施設の整備・充実	<p><b>○スポーツ施設の統廃合</b></p> <p>①平成 24 年度 テニスコート解体（二宮あおば台）</p> <p>②平成 25 年度 鹿島水泳プール解体 鳥屋体育館解体 鳥屋武道館弓道場解体 基石が峰マレットゴルフ場解体</p> <p>③平成 26 年度 鳥屋相撲場解体</p> <p>④平成 27 年度 励志館解体</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで統廃合を実施してきた関係により、施設の維持管理が軽減できた。このことにより、集約された施設の整備及び充実が図られ、利用者に対するサービスが向上できた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ施設建築から約 35 年から 40 年経過し、修繕に係る費用が増大している。安全に利用できるように計画的な修繕が必要である。</li> </ul>
	<p><b>○スポーツ施設の二次的活用</b></p> <p>①災害時の避難所対応に備え、鹿島体育センターに太陽光発電施設を整備した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来を見据えた公共施設活用指針の策定を行い、施設利用の位置づけ、多機能複合化でサービスの向上を目指し、施設の適正な維持管理を行う。</li> <li>施設の利用者に維持管理費の一部負担を義務付ける料金改定を実施し、適正な施設運営管理を行う。</li> <li>利用者が安全かつ安心して利用できるように保守管理と速やかな修繕に対応し、管理施設の縮減が利用者の減少にも繋がるため、町民がスポーツやレクリエーションに親しめる環境づくりを推進し、スポーツ施設の効率的な管理運営と整備を図る。</li> <li>公共施設が主たる目的以外にも活用できる生活環境整備にも取り組む。</li> </ul>
	<p><b>○施設の耐震化及び大規模改修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鹿島体育センター大規模改修工事 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 建築躯体の耐震化の向上</li> <li>2) アリーナの音響改善</li> <li>3) 照明器具の LED 化</li> <li>4) 衛生設備の改善</li> <li>5) 多機能設備の充実（多目的トイレなど）</li> <li>6) トレーニング器具の充実</li> <li>7) 防災設備の充実（自家発電）</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化したスポーツ施設の設備関係更新等を行ったことで体育施設の充実を図ることができた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育施設の統廃合を考慮した上で、設備等更新の優先順位を実施していく。</li> <li>利用者が安全かつ安心して利用できるように保守管理と速やかな修繕が課題である。</li> <li>事業の縮小は、設備の充実に相反し利用者の減少にも繋がるため、町民がスポーツやレクリエーションに親しめる環境づくりを推進し、スポーツ施設の効率的な管理運営と整備を図る。</li> </ul>

項目	事業の名称及び実施概要	点検及び評価
(4) 指導者の養成と選手の育成	<p><b>○体育協会と連携し、指導者の指導力向上及び選手の育成に努める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の資質向上，選手の育成</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度は，全競技団体に対し指導者育成に努めるよう指導した。また，行政としては指導者研修を開催し，育成強化に向けた支援を実施した。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全競技において若い世代の指導者の養成が必要である。今後も継続して指導力向上に向けた取り組みや育成強化に努めていくよう指導していく。</li> </ul>
	<p><b>○全国大会等に出場する選手の支援</b></p> <p>①ジュニア全国大会（15 大会 延 55 人出場）  ②全国高校総体（14 人出場）  ③国民体育大会（3 人出場）  ④その他高校生の全国大会（5 大会 6 人出場）  ⑤一般全国大会（2 大会 延 12 人出場）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュニアスポーツ全国大会出場派遣補助  （公共交通利用のみ適用）H30 年 9 月より  交通費：全額補助  宿泊費：半額補助  参加料：半額補助</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度は昨年度より全国大会出場者が増加した。年々出場選手が増加傾向にある。育成支援や援助の効果が出ていると感じている。</li> <li>・他市町に比べ優遇された補助金制度により，選手の負担を軽減できた。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会等出場には交通費，宿泊費，栄養費など多額の費用が必要なため，町からの補助金は引き続き継続する。</li> </ul>

## II 教育委員の主な活動

時期	各種会議・関係行事等	開催場所及び参加者数等
平成 30 年 4 月	異動教職員辞令伝達式 小中学校入学式  鹿西高等学校入学式 石川縣市町教委連第 1 回理事会 石川縣市町教育長会議 夢プロ実行委員会	ラピア鹿島 【4 名】【教育長】 小学校 3 校, 中学校 1 校 【4 名】【教育長】 鹿西高等学校 【教育長】 金沢市庁舎 【教育長】 ANA クラウンプラザホテル金沢【教育長】 ラピア鹿島 【4 名】【教育長】
5 月	石川県教育委員会連合会定期総会 第 1 回教育委員代表者会議 町立小学校運動会 町 PTA 連合会定期総会 七鹿中学校陸上競技大会 全国町村教育長会総会・研究大会	金沢市教育プラザ富樫 【4 名】【教育長】 同 上 【教育長職務代理者】 小学校 3 校 【4 名】【教育長】 ラピア鹿島 【教育長】 七尾市城山陸上競技場 【4 名】【教育長】 東京都 【教育長】
6 月	石川県町教育長研修会 小中学校 A 訪問	穴水町 【教育長】 各小中学校 【4 名】【教育長】
7 月	石川縣市町教委連第 2 回理事会 県中学校体育大会応援 町立小学校音楽会 小学校水泳交歓会	金沢市庁舎 【教育長】 県内各会場 【4 名】【教育長】 ラピア鹿島 【4 名】【教育長】 鳥屋学園プール 【教育長】
8 月	県市町教育委員会セミナー 町戦没者慰霊式 石川県民体育大会応援 東海北陸地区町村教育長研究協議会 学校経営研修会 町 PTA 連合会と教育委員会との懇談会 第 2 回教育委員代表者会議	KKR ホテル金沢 【4 名】【教育長】 ラピア鹿島 【4 名】【教育長】 各会場 【4 名】【教育長】 三重県台風で中止 【教育長】 ラピア鹿島 【4 名】【教育長】 中能登中学校 【4 名】【教育長】 KKR ホテル金沢【教育長職務代理者】
9 月	町立小学校器械運動交歓会	鳥屋小学校 【教育長】
10 月	いしかわ道德教育推進事業公開授業研究会 町 PTA 連合会研究大会 外国語教育実践推進事業公開授業研究会 石川縣市町教育委員会連合会研究大会 中能登中学校学校祭	鹿島小学校 【4 名】【教育長】 ラピア鹿島 【教育長】 鳥屋小学校 【4 名】【教育長】 穴水町 【4 名】【教育長】 中能登中学校 【4 名】【教育長】
11 月	紀宝町教育委員会交流 石川縣市町教委連第 3 回理事会 石川縣市町教育長会教育長研修会 教育委員視察研修 算数科教育推進事業公開授業研究会	鹿島小 【教育長】 KKR ホテル金沢【教育長】 KKR ホテル金沢【教育長】 愛知県 【4 名】【教育長】 鹿西小 【4 名】【教育長】
12 月	中能登町こども議会	鳥屋庁舎 【4 名】【教育長】

時期	各種会議・関係行事等	開催場所及び参加者数等
平成31年 1月	中能登町成人式	ラピア鹿島【4名】【教育長】
2月	中能登中学校立志式 生涯学習のつどい	ラピア鹿島【4名】【教育長】 ラピア鹿島【4名】【教育長】
3月	夢プロ実行委員会 鹿西高等学校卒業式 町立中能登中学校卒業証書授与式 町立小学校卒業証書授与式	ラピア鹿島【4名】【教育長】 鹿西高等学校【教育長】 中能登中学校【4名】【教育長】 小学校3校【4名】【教育長】
通年	中能登町議会定例会議, 随時会議及び各常任委員会 その他関係方面からの会議, 行事出席依頼による参加	中能登町議会議場及び会議室 【教育長、教育委員】

Ⅲ 平成30年度決算（教育委員会）の概要

1 目的別内訳

(単位：千円)

区 分	平成30年度		平成29年度		増 減 額 A-B	増 減 率
	決算額 A	構成比 %	決算額 B	構成比 %		
教 育 総 務 費	232,577	22.04	261,166	24.75	▲ 28,589	▲ 0.11
小 学 校 費	104,019	9.86	301,000	28.53	▲ 196,981	▲ 0.65
中 学 校 費	60,584	5.74	62,255	5.90	▲ 1,671	▲ 0.03
社 会 教 育 費	349,517	33.12	423,318	40.12	▲ 73,801	▲ 0.17
保 健 体 育 費	308,487	29.24	256,768	24.33	51,719	0.20
うち体育施設費等	101,201	9.59	135,141	12.81	▲ 33,940	▲ 0.25
うち学校給食費	207,286	19.64	121,627	11.53	85,659	0.70
計	1,055,184	100.00	1,304,507	123.63	▲ 249,323	▲ 0.19

## ※注釈

- ※1 ALT、Assistant Language Teacher (アシスタント・ランゲージ・ティーチャー) の略称、英語教科において日本人の教員を補佐し、生きた英語を児童生徒学生に伝える英語を母国語とする外国人の教員を指す。
  
- ※2 ICT、Information and Communication Technology (インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー) の略称、日本では既に一般的となったIT (情報技術) の概念をさらに一歩進め、ITに通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。国際的にはICTという呼称の方が一般的。
  
- ※3 GTEC、Global Test of English Communication (グローバル・テスト・オブ・イングリッシュ・コミュニケーション) の略称、ベネッセコーポレーションが主催している、グローバル人材に必要な英語力を測定する検定試験です。
  
- ※4 SSW、School Social Worker (スクール・ソーシャル・ワーカー) の略称、非行、登校拒否などの問題に直面する児童生徒たちを学校と家庭とのパイプ役となって支援する専門家。
  
- ※5 PTCA、Parent (親) Teacher (先生) Community (地域) Association (会) の略称、PTAに地域住民が加わった「親と教師と地域住民の会」。地域住民が、学校教育に外側からの支援をするだけでなく、地域の子どもたちは地域で育てるという「共育」の気持ちを大切にします。学校・家庭・地域社会の三者が、子どもの教育について緊密に連携した組織がPTCAです。
  
- ※6 Jアラート、ミサイル発射や津波、地震などの緊急情報を日本政府が発すると人工衛星や地上回線を通じて全国の市町村の防災行政無線を自動的に起動し、屋外スピーカーや屋内受信機、メールで知らせるシステム。